

安芸市土居・僧津地区

地域農業の未来を考える集落座談会（１回目まとめ）

１．実施日時：令和６年９月２４日（火）１４：００～１５：４５

２．実施場所：安芸市役所２階第１・２会議室（安芸市土居８２番地１）

３．参加者：地域の担い手等（６名）
JA高知県安芸営農経済センター等（１名）
高知県安芸農業振興センター（３名）
安芸市農林課（１名）

計１１名

４．テーマ：「土居・僧津地区が目指す農業の将来像」

５．会議録（参加者からの意見）

①地域農業の現状及び課題

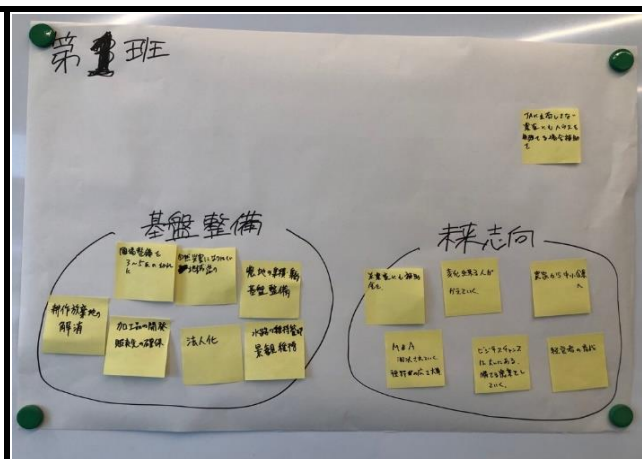
- ・ナス以外の有望品目を今から検討してはどうか。
- ・本県の主要品目であるナスやピーマンを使った土産物がない。飲食店でもそれら食材を使ったメニューが少ない。
- ・特に米づくりを作業受託してくれる事業体が必要な状況。
- ・離農した高齢者の中にも、働く意欲や高い技術を持った農家がいるはず。
- ・安芸市のナス農家は高い栽培技術を有している。
- ・消費者と生産者がつながる機会が少ない。
- ・子どもが農業（モノづくり）に興味を持つような取組が必要。
- ・ハウスが高スペックになるに伴って建設費用も高くなり、経営上のリスクを回避するため、新規就農者がハウスを新設することができない。

②課題解決に向けた取組

- ・現状でもビジネスチャンスは大いにある。経営者や地域のリーダーを育成して、未来志向の勝てる農業を目指す。
- ・自然災害を受けにくい農地整備に取り組み、災害に強い産地にする。
- ・ナス以外の有望品目について検討を始める。
- ・ナスやピーマンなど地域で生産される青果を使用した加工品を開発する。
- ・作業の見える化など、より効率的な農業の実践するための勉強会を開催する。
- ・経営をリタイアした営農技術のある元農家による人材派遣サービスを展開する。
- ・農家の高い栽培技術を継承する取組を検討する。
- ・新規就農者のリスク回避のため、低スペックハウスの補助金（補助率）を嵩上げて利用を促進する。
- ・消費者がにつながる仕組みを検討し、生産者のモチベーションを上げる。
- ・子ども達が農業に興味を持てる学校教育を実施する。

【座談会の様子】

《第1班》



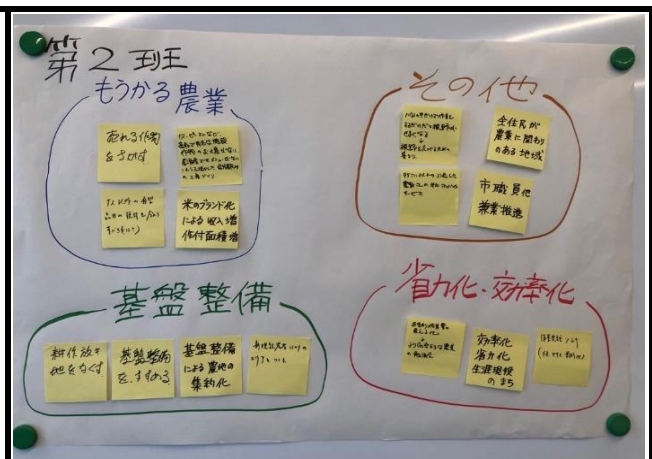
テーマ 土居僧津地区が目指す農業の将来像	
第1班	
No. こんな地域農業を実現したい!	実現するための方法
1 未来志向の農業を目指す	経営者の育成 リーダー育成 勝てる農業をしていく 耕作放棄地の解消
2 基盤整備を進める	法人化
3 ビジョン	



■班内で出された意見■

- ・1～2反のハウスが多いが、ほ場整備により3～5反の農地を増やす。
- ・台風等の災害も多く、自然災害を受けにくい農地整備が必要。
- ・地域で生産される成果の加工品が不十分。加工品開発と販売先の確保が重要。
- ・法人化による安定的な経営を推進する。
- ・農業用水路の維持管理と景観維持に取り組む。
- ・系統外農家にも新規ハウス建設の補助金が必要。
- ・米づくりは厳しい状況。稲作農家にも何らかの支援を検討してはどうか。
- ・農家から中小企業へ、経営者を育成する。
- ・現状でもビジネスチャンスは大いにある。変化できる人が勝てる農業を実践する。

《第2班》



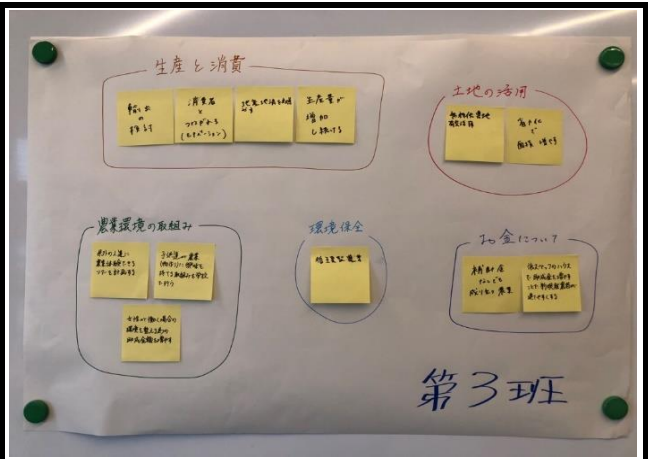
テーマ 土居・僧津地区が目指す農業の将来像	
第2班	
No. こんな地域農業を実現したい！	実現するための方法
1 もうかる農業	・ナスやピーマンの加工品、土産品開発 ・ナス以外の有望品目を導入する ・米のブランド化
2 省力化・効率化	・反当り作業量の見える化 ・作業受託組織の設立推進 ・生涯現役のまち
3 その他	・基盤整備による農地の集約化 ・高齢農家の技術継承(派遣サービス)



■班内で出された意見■

- ・ナス以外の有望品目を今から検討してはどうか。
- ・米のブランド化による稲作経営の収入増を図る。
- ・高知県の施設野菜であるナスやピーマンなどを使ったお土産物や飲食メニューが少ない。
- ・基盤整備による農地の集約化が必要。
- ・新規就農者を集めたエリア(団地)をつくる。(技術指導や情報共有など)
- ・ハウス内で作業するだけでなく、視野を広げるための研修会等を増やす。
- ・反当り作業量を見える化して、より効率的な農業の実践するための勉強会を開催する。
- ・稲作や野菜などの作業受託を担ってくれる事業体を増やす。
- ・効率化や省力化を推進して、農家が生涯現役の地域にする。
- ・全ての住民が農業に関わりのある地域にして農地を維持管理していく。
- ・リタイアした75歳以上の農家を集めて、アルバイトの人材派遣サービスを実施する。
- ・安芸市のナス農家の栽培技術は高いので、糸釣りなどの栽培技術を継承する仕組みが必要。
- ・市や県、JA職員などの兼業制度を検討し、地域として産地を守っていく。

《第3班》



テーマ 第3班	
主居 俣津地区で目指す農業の将来像	
No.	こんな地域農業を実現したい！
実現するための方法	
1	耕作放棄地の省か化理用
2	担い手の育成について
3	



■班内で出された意見■

- ・消費者とつながる仕組みがあれば生産者のモチベーションアップになる。
- ・地産地消を増やすとともに輸出も検討する。
- ・生産量が増加し続ける産地にしたい。
- ・県外の人を対象にした農業体験ツアーを増やす。
- ・子ども達が農業（モノづくり）に興味を持てる取組を学校で教育する。
- ・女性が働きやすい環境を整えるための支援を増やす必要がある。
- ・補助金がなくても成り立っていく農業を確立する。
- ・低スペックのハウスの補助金（補助率）を上げて、新規就農者が利用を促す。
- ・徹底した省力化に取り組んで作付面積を増やしていく。
- ・循環型農業に取り組む。